



実践力向上講座の取組の様子

令和元年度のかながわ教育学講座も残すところわずかとなり、2月20日に、実践力向上講座の取組も全て終了しました。教員をめざすカレッジ受講者のために、今年度も数多くの学校や教育事務所に御協力いただきました。子どもたちや先生方と関わったり、行事や指導補助を体験したりすることができたからこそ、得られた経験や気づきがたくさんあったことと思います。ティーチャーズカレッジ事務局の所員も、いくつかの取組先を訪問し、受講者の皆さんが取り組む様子を拝見しました。今年度訪問した取組先の中からいくつか紹介します。



寒川町立南小学校

南小学校では、授業内補助的指導体験が実施され、9月25日(水)に、チャレンジコースの受講者1名が参加しました。

1時間目は4年生の算数の授業で指導補助を行いました。問題を解くのに困っている児童に寄り添い、アドバイスを送りました。また、2時間目は2年生の算数の補助を体験しました。机間指導に加えて、問題が終わった児童の丸付け補助も行いました。

授業の合間の休憩時間にもプリントが終わっていない児童の指導補助を行うなどして、子どもたちの困り感に寄り添い、指導をしていくことの大切さを感じ、教科指導や児童・生徒理解等について認識を深めることができたのではないのでしょうか。



受講者の感想

児童は一人ひとり学習進度が違い、全ての児童に合う学習課題を用意することが「分かる授業づくり」に繋がると感じました。

机間指導だけでなく、丸付けや給食の配膳等も行い、運動会の準備ではライン引きやロープ張り、テント立てなど様々な教員の仕事を体験でき、良い機会でした。色々な学年に入らせていただいたこともとても勉強になりました。



箱根町立箱根中学校

箱根中学校では、9月26日（木）に「研究授業の参観及び研究協議への参加」の取組が行われました。オープンコースの受講者1名が参加しました。

授業参観では、中学校1年生の英語を参観しました。また授業後には、研究協議で生かすために、担当教師から4人の生徒への授業の感想を聴取する生徒インタビューも行われ、こちらも参観しました。

研究協議では、研究テーマである「主体的に学ぶ生徒の育成～生徒が思わず考えたくなる授業を目指して～」を協議の柱に据えて話し合いを行いました。グループごとに分かれて、授業の感想を書いた付箋をもとに、模造紙に協議内容をまとめる中で、先生方の授業についての意見を真剣に聞きながら参加する受講者の様子が見られました。具体的な指導法の工夫のみならず、たゆまず授業改善に取り組む先生方の姿から、多くの学びを得たことと思います。



受講者の感想

自分の専門とは違う授業を参観させていただきましたが、導入や雰囲気づくり等、学ぶことが多くありました。協議の参加も初めてで、得るものばかりの濃い時間になりました。ありがとうございました。



県立新城高等学校

新城高等学校では、10月17日（木）に教員業務見学の取組が行われ、オープンコースの受講者5名が参加しました。

校長講話や学校概要説明、校内の見学に始まり、授業見学やその後の協議、新城高校の若手教員との懇談、生活指導に関する講話等、多岐にわたる内容で講座が展開されました。授業だけでなく生活指導や校内環境を整えること等も、生徒の成長を支える大切な教員の仕事であると感じたことと思います。

また、若手教員との懇談の中では、採用試験に関するアドバイスや心配事等も話題となり、教職に対する志をさらに強くすることができたのではないのでしょうか。



受講者の感想

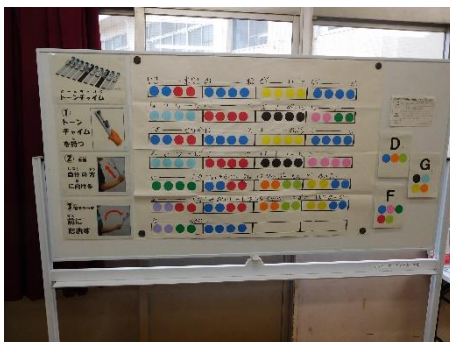
講座を通して一番印象に残っていることは、現職の先生方が自分の中に、それぞれ教職への熱い信念を持っているということです。教員という仕事は確かに大変だけれど、それ以上に生徒は良いものを返してくれるということを聞き、やはり、教員は魅力的な職業であると感じました。この講座を受けて、より一層教員への思いが強まりました。



県立小田原養護学校

小田原養護学校では、11月26日(火)の公開授業にチャレンジコースの受講者2名が、11月29日(金)の公開授業にはチャレンジコースの受講者1名が参加しました。

この取組では、公開授業として知的障害教育部門の小1、小4、中1・2、中3の授業と高等部の作業学習を参観し、意見交換会が行われました。また、教員が授業で使用している教材・教具も展示されており、工夫して作られている様子から、児童・生徒理解を深め、実態に合った授業づくりをすること、また、そのために必要な教材・教具を考え、作成することの重要性を感じたことと思います。



受講者の感想

複数の授業を客観的に見学する事で、より多くの工夫や配慮に気付くことができたと感じました。授業見学の中で特に ICT 機器等を活用した授業が印象に残り、スイッチや iPad 等を用いる事で、児童・生徒の持てる力を発揮できる場面を作り出しているとわかり、ICT 機器等の活用に取り組みたいと思いました。また、「子どもたちから学ぶ」という姿勢を大切にしていきたいと深く感じました。



県西教育事務所

県西教育事務所では、道徳教育研修講座が、中学校対象は11月7日（木）に小田原市立酒匂中学校、小学校対象は11月28日（木）に小田原市立下中小学校と開成町立開成南小学校の2会場で行われました。

この講座は、各学校の道徳教育推進教師を対象とした講座です。「『考え、議論する道徳』の充実に向けて～自分自身の問題として捉え向き合う授業をめざして～」をテーマに掲げ、3名の推進教師から提案された授業をもとに協議をし、実践的指導力の向上を図るものです。かながわティーチャーズカレッジからは、合計6名の受講者が参加し、それぞれの会場で、道徳教育推進教師による提案授業と、研究協議を参観しました。

導入の工夫や板書の工夫が施された授業を参観し、「『考え、議論する』道徳」に迫るための手立てをたくさん学ぶことができました。

また、後半の研究協議では、素直に自分の思いを話すことができる学級の雰囲気づくりの大切さや教師の適切な問い返しによって、子どもたちに自己を見つめさせ多面的・多角的に考えさせていくことの重要性を感じることができました。



受講者の感想

- 道徳の授業を参観出来る機会がないので、今回参加することができてとてもよかったですと思います。子どもたちの表情はとてにこにこしていて楽しそうでした。私もこのような授業ができるように頑張りたいです。
- 道徳教育に対する見方・考え方が変わって、多面的・多角的に授業を展開する大切さを知ることができました。
- 教材を分かりやすく提示する工夫や範読の仕方など、多くのことを学びました。
- 研究授業・協議を通じて「道徳で心情を視覚化することが出来るようにするための手立て」や「ペアワークを用いて自分事に置き換えるための工夫」について学びました。